

「考えるワークシート」について

この「考えるワークシート」は、保健分野の学習内容を各項目（単元）に分類し、そこで得た知識をもとに、さらに考えを深めるためのきっかけづくりの材料として企画したものです。

新しい教育課程で理想とする保健分野の学習の形は、身につけた知識を自分自身の問題として照らし合わせて考え、いまの生活に取り入れられることはすぐに取り入れ、あるいは将来役立てることができるものについては、それをイメージしたりシミュレートしたりすることだと考えます。この「考えるワークシート」は、その学習の形の「誘い水」のような役割を果たすでしょう。

「考えるワークシート」の構成は以下の通りです。

- ①冒頭に項目タイトルがあり、学習を振り返ったコラム風の文章が示されています。この文章は、学習してきた内容を、ややくだけた形でおさらいし、学習の要点についてもう一度考える機会を与えるためのものです。内容には、執筆者の主観的な見解が示されている場合もありますので、授業者が授業内容を勘案し適宜書き換えるとよいでしょう。
- ②その下には3～4の設問があります。これらは知識が身に付いたかどうかを探るものではなく、身に付いた知識をどうとらえ生かそうとするか、という点について問う内容になっています。指導内容から逸脱したものもあるかもしれませんが、得た知識を日常化し自己の問題（課題）としてさらに深く印象づけます。もちろん、より授業に即した内容に書き換えることもできます。
- ③設問のあとには、締めくくりのコメントが示されていますが、これも授業者の学習目標がより明確に伝わるよう授業のねらいに即した内容に書き換えるとよいでしょう。

「考えるワークシート」は、採点を目的として作成したものではないので氏名の記入欄は意図的に設けてありません。しかし「思考・判断・表現」の観点を見て取る手だてとして活用することもできますので、提出を求め記述について教師が評価するのもよいでしょう。その際、余白に氏名を書き込むようご指導ください。

「思考・判断・表現」の観点を評価の手だてとして用いるならば、①知識を個人の問題と照合しようとする記述がみられれば「おおむね満足できる段階」つまりB評価と判断してよいでしょう。さらに②具体的に生活に取り入れたり、将来の生き方に応用しようしたりするような記述があれば、これはA評価としてよいでしょう。③知識をただ知識としてとらえるだけの状況では「思考・判断・表現」については「努力を要する状況」です。（注：このワークシートは「知識・技能」もしくは「主体的に学習に取り組む態度」の観点をみる手だてとしては適切ではありません。）

生徒自身の学習の深まりを促す材料として、または「思考・判断・表現」の観点を見て取る手だてとして、この「考えるワークシート」を工夫してご活用いただければ幸いです。

以上